

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370300677		
法人名	医療法人 愛生会		
事業所名	グループホーム 愛生 5F		
所在地	熊本県人吉市二日町22番地		
自己評価作成日	平成25年1月16日	評価結果市町村受理日	平成25年3月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アクシス		
所在地	熊本県熊本市八幡9-6-51		
訪問調査日	平成25年1月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

人吉中心部の病院建物4階、5階を利用して作られたグループホーム愛生は、1階に外山内科があり、定期診察にて病状管理を行い、3階にある訪問看護ステーションと連携し、日頃の体調管理を行っている。また急変時の対応が速やかに行われるために、ご本人様やご家族様にも安心していただいている。施設内においては、季節を肌で感じていただけるようにバスハイクを行ったり、健康体操・嚥下体操・歌など毎日行い健康に努めている。また、認知症の進行予防にくもんの学習療法を取り入れ利用者様とのコミュニケーションを深めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は4階と5階に設けられており、視界を遮るものがないばかりが大変明るく、温かい雰囲気です。利用者の穏やかな表情が印象的でした。また、すぐ下の3階が訪問看護ステーションになっており、夜間や緊急時の対応が速やかなことも特徴だと思いました。ソフト面の取り組みについても、一定の交通費及びを事業所が負担して、職員のスキルアップ研修に積極的であること。また学習療法による認知症の進行予防に取り組んでいて、結果が徐々に表れてきていることなどです。今後も管理者・職員一丸となって頑張りたいと思います。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月曜日の朝、4階・5階合同で朝礼を行う前に理念の復唱を行っている。復唱することで自己への再確認を行い、それを現場に活かす様に努めている。	事業所は基本理念として、「尊厳・自立支援・共生」を掲げている。見やすい壁面2ヶ所に掲示した上で、毎週月曜の朝礼時にリーダーのもと、唱和を行ない、再確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	市のイベントなどに参加したり、ボランティアスクールを受入れることで子供たちとの交流を図ったり、又ボランティアで、歌や踊り、メイクアップ教室、華道、人吉別院よりお坊さんに来ていただき法話を聞いたりしている。髪など伸びてきた時には、近くの理美容室へ出かかっている。	小・中学校を受け入れるボランティアスクール、月に1回の華道教室、月に3～4日の日程で行なわれるメイクアップ教室、また月に1回のお坊さんによる講話など、事業所は機会を見つけては、地域との交流に取り組んでいる。	管理者も考えているように、近隣の落ち葉清掃など、より日常的な交流にも取り組み、地域との繋がりを深めて欲しいと思います。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今は、出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームの状況は全てお知らせし、又その中で意見等があれば、それを現場に活かせるように努力している。	会議は民生委員、地域包括支援センター職員、町内会長などの出席のもと、2ヶ月に1回行なわれている。利用者の状況や事業所の取り組み等について報告し、話し合う機会としている。また町内会長からは、地域の行事や情報などについて教えてもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や利用者様の介護更新手続等で市役所へ行った時、色々問題があれば、相談をしている。	今年度は、運営推進会議への市の担当者の出席はなかったようであるが、集団指導や介護更新手続き時、また判断に迷ったり問題が発生したりした時などは、相談出来る体制を整えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、研修会などでしっかりと理解をさせ、身体拘束をしないように取り組んでいる。	内部研修会、また法人が行なう身体拘束委員会が月に1回行なわれ、具体的な行為の理解と拘束をしないケアについて学んでいる。また、外部研修会についても一定の交通費及び受講料を助成する体制を取っており、職員のスキルアップに取り組んでいる。	

グループホーム愛生

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についても、研修会で学び、実践をしている。身体的虐待は、入浴時に体をチェックを行うので、もしあったとしたら直ぐにわかる。言葉の暴力に関しては、現在見受けられていない。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	権利擁護も成年後見制度も利用者様が実際にご利用されているので、制度に関して理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い本人様や家族様が理解・納得していただいた後に契約を行っている。また、介護保険が改正されて利用料等に変更があった場合にも、説明を行い、書面にて同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望などあれば、運営推進会議でも報告し、それらを運営に反映するようにしているが、現状は意見や要望は聞かれていない。	相談窓口の明示や第三者苦情処理機関のポスターも掲示し、意見や要望が出れば、運営推進会議でも取り上げ、運営に反映出来る体制を整えている。今のところ、取り立てて意見や要望は寄せられていないようである。	利用者や家族からは、お世話になっている立場上、なかなか意見や要望は言いにくいものです。意見や要望は運営上、大事な宝と考え、今後も出しやすい環境作りに取り組んで欲しいと思います。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議等で運営について意見等を聞いている。また、終礼時の申し送りや、日々の業務の中でも相談があれば聞くようにしているし、改善すべき点は、話し合った上で改善し、取り組んでいる。	月末の会議の中では、意見や提案を聞く時間を設けている。その他でも随時に聞けるようにしている。これまで入浴支援の在り方については、職員の意見を取り入れ、改善した事がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昇給、福利厚生、など職員が働きやすいように努めていただいている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は職員がスキルアップできるように奨励されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の研修などに参加し、他の施設のスタッフなどと意見交換をする事により、自分の施設の見直しなど行い、サービスの向上に努めている。		

グループホーム愛生

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常に利用者様に耳を傾けて、本人様に安心していただけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時や、契約時においても、家族からの情報や要望等を聞き、少しでも対応できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様が出来ることを把握し、お願いしている。そして終わったら「助かりました。ありがとうございました」とお礼を言うことで、利用者様もニコニコされていい関係が保たれている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診やオムツの購入、家族様に出来ることは依頼をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者様の馴染みの方たちの来訪は夜間以外はいつでも受け入れている。	馴染みの方の来訪は歓迎しているが、ほとんどが家族や親せきのようなものである。以前は、同級生などの来訪もあったようだが…。月に1回はお花の先生が来られ、季節の花を届けられるのが利用者の楽しみとなっている。また、馴染みの美容室利用や恒例の初詣では、混雑を避けて支援している。	
21		利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	どうしても他の利用者様から嫌われる人の場合はスタッフが寄り添い、対応をしている。		

グループホーム愛生

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	努めているが、困難な場合はその人が自由に動かれるのを見守っている。	把握については、職員自身が決める目標シートであったり、家族からの聞き取りであったり、学習療法においてはこれまで頑なな表情であった利用者から戦争体験を聞き出す事ができ、褒める事を取り入れることにより、笑顔が生まれるようになったそうである。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	努めている。特に生活歴などは、利用者様と話をするときの話題に役立っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来るだけ思い思いに生活できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議では、本人・家族・関係機関・計画担当者・介護職員等が参加し、それぞれ意見や希望など反映した計画を作成している。	本人、家族の意見や希望を取り入れながら、訪問看護師、栄養士、また必要な場合はドクターにも意見を聞き、現状に即した介護計画になるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々変わる利用者様の状態をしっかり捉え、ケース記録や申し送りノート等を利用し情報の共有に努め、実践を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自立している方や車椅子の方などその人に合ったサービスを提供している。		

グループホーム愛生

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベントや施設全体での文化祭などに参加したり、ボランティアの方々に施設に来ていただき、交流を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様の症状に合わせ、どの病院がよいか、本人やご家族に相談しながら受診を行っている。	基本的には本人や家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。現在は、利用者の全員が同法人の医療機関をかかりつけ医としている。今現在は、歯科を含めて専門医を受診されている方はおられない。専門医の受診については、家族に対応をお願いしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	一日の状態を記録し、夕方訪問看護へ申し送りを行っている。また、随時利用者様へ変化があった場合も訪問看護へ連絡をし指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	月1回の管理運営委員会にて病院との情報交換を行ったり、緊急の場合も訪問看護や、外来看護師の協力の下病棟との連絡を密にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、ドクターの方より家族へ病状の説明や今後についての話し合いが、介護スタッフも含め行われている。	日頃から訪問看護ステーションとの連携を密にしており、訪問看護師の指導を受けている。その際、重度化した場合は、ドクターより家族への説明があり、その後の対応について話し合っている。また看取りについては指針を作成しており、家族と同意書を取り交わしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応については、施設内外の研修に参加すると共に、フローチャートを作成し、日々確認を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害等に対しては、昼間は何とか対応できるが、夜間帯が非常に厳しい状態(具体的な話し合いが出来ていない)にある。	避難訓練は、年2回実施している。うち1回は夜間を想定して行なっている。事業所が4階と5階に位置している為、ベランダ避難を想定した訓練を行なっている。消防署への火災報知装置やスプリンクラーは整備されている。	訓練がマンネリ化していないか、避難経路に物が置かれていないかなど、再確認をお願いします。合わせて地域への協力体制作りにも着手して欲しいと思います。

グループホーム愛生

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いに対しては、常に注意を促している。トイレや入浴時なども出来る限りプライバシーを確保できるように取り組んでいる。	接遇や言葉使いに関する研修会を行なっている。特に排泄の際の声掛けや入浴時の対応—具体的には服を掛けてあげたり、声が掛かるのを待つなど、細かい配慮を行なっている。またプライバシーの確保については、契約時に同意書を取り交わし、保護に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活する中で、何事においても利用者様へ伺い、対応をしている。利用者様が判断が困難場合は、いくつかのアドバイスをし、判断していただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ努めているが、施設でやるのが決まっているので、ゆっくりとしたペースでは、出来ていないと思う。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪が伸びてきた時は、美美容室へ行ったり、出来るだけ同じ服にならない様に心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	茶碗洗いやエプロン洗いなどお願いしている。	玉ねぎの皮むき、もやしの根切りまた台拭きは利用者をお願いしている。その他については、業者から調達しており、利用者との共同作業は特にない。食事を美味しく頂く為に、嚙下体操やにこにこ体操、またサザエさん体操を取り入れている。	給食会議では、栄養士や業者も参加して、多方面からの検討会が行なわれている様です。その中に旬をうまく取り入れ、利用者に舌でも季節を感じてもらおう工夫が出来たらと思います。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスについては、管理栄養士のもとで、メニューを作成し、提供している。水分量については、毎食後とおやつ時にチェックシートにて管理し、少ないようであれば、飲んで頂くように促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは行って、夕食後は、洗った後、洗浄剤を入れて洗浄している。口腔ケアは、ご自分で出来る人には、お願いしている。		

グループホーム愛生

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員各自が尿パッドの交換する目安を定め、同じ対応をする事によりパッドの使用を減らすようにしている。	排泄チェック表をつけており、時間による誘導や、一人一人の排泄パターン、また立ちあがってそわそわするなどの特徴をつかみ、トイレでの排泄を支援している。寝たきりの利用者が1名おられ、オムツ利用となっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の摂取量や運動を適度に行い、また、トイレにて腹部マッサージなども行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の対応は厳しい。現在は曜日と時間帯を決めて行っている。	入浴は週3回支援しており、月水金と火木土のグループに分けて行っている。夏は汗をかくので、午後の時間帯で、冬は午前中の時間帯で支援している。入浴があまり好きでない方の場合は、時間を空けて、また場面を変えて支援するようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ストーブをセンターに置き、そのストーブの周りで団欒されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については、利用者様の状態により、処方かわるので、注意をし、変更があった場合には、様子観察を徹底して行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	天気の良い日は、散歩に出かけたり、車椅子の方は、病院へリハビリに行かれる時に、外の空気にふれて、少しでも気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	利用者様からの希望等はほとんど聞かれない。いずれも施設主体にて外出など行っている。	介護度が高い利用者が多いこともあり、やや4階よりは外出支援が難しくなっている。桜の季節などは、病院敷地内の花見を行なったりもしている。	外出希望が少ないようであるが、近くに恵まれた環境もあり、また地域の人々との交流の面からも支援の方法を考えて欲しいと思います。

グループホーム愛生

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は施設管理の為、なかなか、利用者様がお金を持つ事が出来ない状態だが、あるとすれば、祭りの時の福引きなどを交換するときに100円くらい持って行く。また、神社参拝時も10円程度使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話は引継ぎをしているが、こちらからの電話は、家族から拒否されたケースもあり、緊急時以外や必要時にしか電話はかけていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感ということでは、お花の先生に来ていただき(月1回程度)生け花を行い、その後は玄関等に飾らせていただいている。日中はアロマを使用している。	月に1回は、お花の先生による生け花が行なわれており、視覚とともに季節感も漂う共用空間となっている。また、唱歌や民謡などのBGMも流されており、演歌がとくに利用者には評判がいいようである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下を散歩されたり、部屋などで休まれたり、それぞれ自由に生活されています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ家で使用していたタンスなどを持ってきていただけるようお願いしているが、利用者様の状態では、家具など置かないケースがよい時もある。	ベッドは事業所の方で備えられている。寝具については、貸与する事も出来る。家具や調度品などは、それぞれの利用者で対応している。思い出の写真や家族写真、また仏壇などを置いて、居心地よく過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーであり、手すりをつけて、歩きやすいようにしている。又トイレや歯磨き、居室等は表示をしている。		